

## ヒラメ無眼側の黒化パターンあれこれ

香川県ではヒラメの漁獲量増加のために、毎年約50万尾の種苗を放流しています。飼育されたヒラメ種苗は、一般的に眼のない無眼側に黒い色素（体色異常）があります。そして、この黒化パターンは、個体ごとに違ってきます。今回は、2021年春に漁獲されたヒラメの体色異常魚の黒化パターンを紹介したいと思います。

黒化パターンは、山本（2021）に基づき、頭部、胸・腹鰭基部付近、尾柄部、それぞれの部位の体色異常の有無と体幹部の色素異常面積割合で分類しました（図1）。

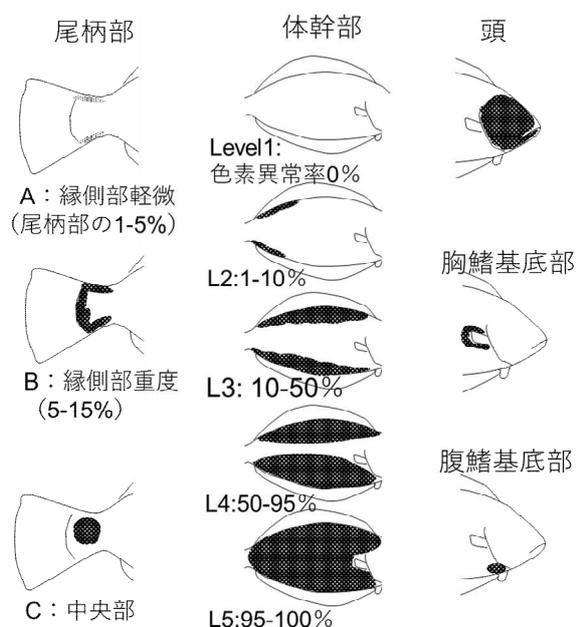


図1 黒化パターンの分類



図2A 体色異常ではないヒラメ



図2B 腹鰭+（体色異常あり）、体幹部 Level2、尾柄部 B



図2C 腹鰭+, 体幹部 L2, 尾柄部 B



図2D 胸鰭+, 尾柄部 A



図2E 胸鰭+, 腹鰭+, 体幹部 L2, 尾柄部 A

色素異常でないヒラメを図2A, 体色異常魚の写真を図2B-Lに示しましたが、黒化にもいろいろなパターンがあることが理解できると思います。



図 2F 胸鰭+, 体幹部 L2



図 2K 胸鰭+, 尾柄部 B



図 2G 胸鰭+, 腹鰭+, 体幹部 L3, 尾柄部 A



図 2L 頭+, 胸鰭+, 腹鰭+, 体幹部 L4,  
尾柄部 BC



図 2H 胸鰭+, 腹鰭+, 体幹部 L2, 尾柄部 B

【参考文献】

山本昌幸 (2021) ヒラメ人工種苗における放流時と再捕時の  
無眼側黒化パターンと出現率の比較. 水産増殖 69, 173  
-175.

(文責 主席研究員 山本昌幸)



図 2I 胸鰭+, 体幹部 L3, 尾柄部 A



図 2J 頭+, 胸鰭+, 腹鰭+, 体幹部 L4,  
尾柄部 B